

X 9/6

33

52306

小樽商大

乾甫式辭集(續篇)

乾甫式辭集(續篇)

昭和十一年十月九日

小樽高等商業学校へ行幸当日の天覧

小樽商科大学  
図書館

門部 X 9/6

部番号 33

冊

総番号 52306

乾甫式辭集 (續編)



昭和十一年十月九日

小樽高等商業学校へ行幸当日の天覧

今は商業經濟の時代なり... (Faint vertical text describing the book's context and author's background)

四五 四九 四三

# 乾甫式辭集 (續編) 目次

時代經濟の逆轉……………	一頁
商業經濟の歸趨としての世界經濟……………	一〇
名古屋高商の教育方針(本校十周年記念式に於て)……………	一七
長者長命論(東久邇宮殿下御前講演名古屋ロータリークラブに於て)……………	二六
至誠一貫(第七回卒業式に於て)……………	三三
今は商業經濟の時代なり(秋田商業十周年記念式に於て)……………	三五
銚の太閤と金の太閤(第八回卒業式に於て)……………	四一
人事を盡して天命に應ふ(原文次郎君を追悼す)……………	四六
成功の道は既に我に在り(第九回卒業式に於て)……………	四九
中京は國防の中樞(國防義會發會式に於て)……………	五二
ハギレのよい江戸ッ子肌の人(故後藤新十郎氏の感想)……………	五四
水戸武士の面目躍如(梅村清光君を弔す)……………	五五

彦根城は我邦開港の記念塔（彦根高商開校十周年記念式に於て）……………五七

五十年の歲月は長きか短きか（名古屋商業五十周年記念式に於て）……………六〇

歐洲文明起死回生の藥は何處に求むべきか（和歌山高商十周年記念式に於て）……………六五

文明の行衛今いづこ（第十一回卒業生論文集巻頭に序して）……………七一

健全なる精神は健全なる身體に宿る（横濱高商十周年記念式に於て）……………七三

南海名物何やらん（高松高商十周年記念式に於て）……………七五

跋……………卷末

彦根左輪集（附録）目次

至福一貫（彦根高商十周年記念式に於て）……………三三

異昔異今論（東大慶賀十周年記念式に於て）……………二六

今古異高商の趣旨式様（本邦十周年記念式に於て）……………一〇

商業發達の趨勢とJ丁の世界經濟……………一〇

海外經濟の發展……………一〇

時代經濟の逆轉

國民經濟か世界經濟か

人生に解決さるべき幾多の問題があるが其内最も重要且痛切なるは經濟問題である。それは經濟問題は人の死活問題であるからである。アダム・エバが天國から追放されて以來人類は額に汗して食ふべく餘儀なくされた。其額に汗して食ふと云ふことが人の經濟生活の起原である。

今ロンドンに於て世界各國の代表使節が集りて經濟問題の討議を爲しつゝある。我輩は人類の幸福増進の爲に本會議の成功を祈るものである。さりながら本會議が果して成功するか否かは、參加列國代表者が相互間の政治的嫉視反目を超越して現代の世界經濟の真相に立脚して正當なる結論に到達し得るや否やに由るのである。然らば現代經濟の真相は如何。現代經濟の真相を知らんには、經濟世相の歴史的推移變遷を知らねばならぬ。

經濟世相推移の過程は天然生活より人爲經濟に……個人經濟より共同經濟に……遊牧經濟より農業經濟に……農業經濟より産業經濟に……自給自足經濟より有無交易經濟に……土地經濟より資本經濟に推移したのである。アダム・エバが木の實を食ふて天國にさまよふて居た時代は天然生活の代表的時代である。額に汗して食を求めたは人爲經濟の始めである。水草を逐ふて移住しあるいた遊牧時代は天然生活と人爲經濟の過渡期である。農業經濟産業經濟と推移するに従ふて人爲經濟の意義が益深まるのである。

人の經濟生活の原始状態は天然の原始的であり、個別的であり、自給自足的であり、土地的であつたであらう。ロビンソンクルーソーの生活は斯くある事の外の状態にあり得なかつたであらうからである。然して今の經濟世相は推移に推移を重ね、資本を中心とし有無交易を本義とする産業經濟時代である。否寧ろ産業經濟建設の時代と云ふべきか。

之を我國に就て見るに、太古の經濟は別として、封建時代には各國諸大名が己れの領土保全の政策上より、自家の領土内に於て専ら自給自足の經濟政策をとり他領との通商を禁止した。徳川幕府は鎖國攘夷を標榜して外國との通商を禁止し、又士農工商の階級別を設け、商人を庶人の最下位におき、「素町人の分際」なごと云ふて、有無交易經濟の中樞たる商業家を、なくともよいもの扱ひにしたのである。斯くして我國に於ては經濟生活の自然的推移が妨げられ、他邦に比して著しく經濟文化の進歩發達が遅れたかの感がある。

人の經濟生活の推移變遷は常に進歩改善を意味し來つた。人口は増加し自然の供給は之に伴はぬに係はらず、飢えず凍えず人類が榮え行くのは、時代に順應して經濟生活の様式が進歩改善せられたからである。

マルサスは百年前に人口論を著して、人口は幾何級數的に繁殖するに食糧は算術級數的にしか増さぬ、さすれば應て食糧品缺乏の爲に、人類滅乏の時が來るであらうと。マルサスの此の豫言に脅されて、産兒制限論や、無人島發見の企てや、食糧品調節の研究等が起つた。然るに皮肉にも百年經過の今日に於て、物資生産過剰の爲に世界各國が苦しみ、今日のロンドン經濟會議が開催せらるゝ、始末である。之はマルサスが其當時の經濟生活の様式が何時までもつゞくものと見て、それが推移變遷すること

に氣付かずに、其當時勃興した國民經濟原論の立場から立論したからである。今は世界的に有無交易を本義とする産業經濟の時代である。有無交易の中樞機關は商業である。商業に由りて世界は各民族相互に有無交易を爲すの互市場となつたのである。それが爲に、一握の棉花なき我邦に棉業興國論が起つたり、一ポンドの羊毛なきに毛業有望論が起るやうになつた。天保の飢饉には、奥州出羽には黄金の袋を頸にかけて途上に餓死せしもの數知れずと、(然も中國以南の國民は鼓腹擊壤して居つたのに)。それは其當時の諸大名が、何れも自給自足經濟を極端に強制執行したからである。然るに大正十二年關東大震災の如き大天災に出遇ふても、一人の餓死者を出さなかつた。今の小學生は恐らく飢饉の意義を解せぬであらう。それは今は有無交易經濟の時代になつたからである。ロシアはソヴィエト政府になるや否や、外國との通商を破棄し商業を禁じ國內に自給自足經濟政策を強制した。彼等は直に恐るべき飢饉に由りて二ヶ年引續き見舞はれたので驚いて商業を恢復した。

經濟生活の推移變遷に幾多の原因あるが、先第一に擧ぐべきは人智の驚くべき進歩に伴ふ富源の開發、諸般の發明である。就中特筆大書すべきは交通機關の發達と金融機關の整備とである。世界の距離は著しく縮少され國境を超越して富を分布することは容易となつた。之は交通機關と金融機關の發達整備に由るのである。第二の原因は知識の發達に伴ふ世界民族の嗜好慾望の向上である。昔の人達が今の我々の生活状態を見たならば其贅澤に驚くであらうが、其贅澤心即向上したる慾望が經濟生活改善に大なる刺戟となるのである。第三の原因は人口の増加其のものである。人口の増加は經濟生活の改善を餘儀なくするのみならず又容易にする。文化とか文明とか云ふことは、人類と自然界との鬭争に於て人類の勝利を意味する。人口の増加は人類の鬭争力の増大を意味する。増加したる人類が協調力を保つて自然界を征服しつゝ、經濟生活を改善するのである。斯る原因に由りて種々の段階を経て現在の資本的有無交易本義の産業經濟が生れたのである。今の産業經濟には國境はない。世界は全人類の互市場である。全人類は需要者であると同時に又供給者である。

當代經濟相のモットーは適者適産、適地適産である。纖維工業に適したる國民は纖維工業に、重工業に適したる國民は重工業に、綠茶や絹糸布は日本に、コーヒーはブラジルに、バナナは南洋に、棉花は印度かエジプトか將アメリカに。斯くあつて始めて適者適産、適地適産の理法にかなひ全人類の經濟生活が惠まれるのである。當代經濟相の怨敵は最近著しく高められ又高められんとしつゝ、ある世界各國の關稅障壁である。元來關稅制度は自給自足經濟時代の遺物である。國民經濟原論を虎之巻にしたる時代に於てすら、自由貿易か保護貿易かと論争されたのに、今の世界經濟の時代に於て、關稅障壁を高め尙高めんとする烈強爲政家の心理を諒解するに苦しむのである。民族相互間の女々しき政治的嫉視反目に由るか、將た爲政家を圍繞する少數の資本家の畫策に出でたるものか。何れにしても當代經濟相の敵であり、人類の……自國民の最大多數を包容したる……人類の幸福を奪ひ去らんとする狂人の業と云はねばならぬ。

今の世界的不況には幾多の原因があるであらうが、其最大原因と認めらるべきは關稅率の不自然なる引上と、爲替率の不安定と、本位貨幣たる金の某々國への集中偏在

とであらう。通貨は流通してこそ通貨の價值あれ。一國二國に集中偏在されて何の價值があるであらうか。土中に埋没して死藏するに異ならぬ。今若しも某々國が蓄積したる貨幣を世界各國の貿易高に按分比例して分配するならば、それこそ世界的大景氣が呼び起されるのであるまいか。然し之は國民經濟に囚はれて居る國民には、云ふべくして不可能事であらう。其の……自然の……も……の……願みれば四ヶ年有半に亘る曩の歐洲大戰で、世界の經濟的バランスが顛倒された。世界金融の中心がロンドンから紐育へ移された、歐洲列國は巨額の債務を負ふことになつた。若し此の債務が規定通りに取り立てられたなら、景氣處か、列國は破産せねばならぬ。戰債棒引論が債權國たる亞米利加國內に於てすら起つて居るが、世界經濟てふ高所から考ふれば、誠に意義あること、思はれるのである。消費者がなくなれば生産者もなくなる。消費國が潰れるれば生産國も潰れる。之は自明の理である。

世界經濟の特徴は、各民族が適者適産、適地適産の法則に従うて分業し、共に消費者であり又生産者である。各民族各々得意とするものを生産して市場に持ち出して他

民族の得意品と交換すると云ふことに在る。斯くしてこそ始めて人類共存共榮の實が擧げ得られるのである。然るに唯一の交換方便たる金が一國二國に偏在しておつて、さうして斯る目的が達し得られるであらうか。

鎖國攘夷國內自給自足時代の經濟難は、物資缺乏生産不足と云ふことであつた。然るに今の經濟難は生産過剩物資過多と云ふことである。それ故に今の經濟難を打開せんには、世界各國が協調して、相互に自他の區別なく、生産品を消費し盡すことに努力することに在る。其の第一段階として關稅障壁を撤廢せねばならぬことは云ふまでもない。

歐洲大戰四ヶ年有半の間は、歐洲列國の生産は休止の状態にありて、云はゞ此期間歐洲民族は他民族に由りて養はれて居つたのである。自然の歸結として他民族の生産機關が著しく膨脹した。(其の最たるは米國で次で我國と云はれて居るが)何れにせよ、歐洲人が大戰中餓えず凍えず行けたのは他民族の物資供給のお蔭である。然るに大戰終息後、歐洲の生産機關が復歸して見れば、世界的に生産過剩となるのは當然である。

生産過剩、不景氣、失業、生活難斯くなつて見ると、大戰中己れを助け己れを養ふて呉れた國が急に憎くなる。いくら憎くくてもアメリカには齒が立たぬ。之れが國際聯盟における某國の態度、又某々國の通商條約撤廢關稅無暴引上の真相を物語るものであるまいか。

我等は自給自足の國民經濟に再び逆戻りすべくあるか。それとも折角進み來つた世界經濟の立場を保持し、世界の不況を展開し得るであらうか。要は一にロンドン經濟會議の成功か否かに由るのである。世界經濟の立場を保持せんには少くとも爲替比率の協定——假令それが暫定的なりとも——關稅率の最下限までの引下此二點に於てロンドン會議が成功せねばならぬ。ロンドン會議が不成功に終つた場合は如何。それこそ關稅戰爭で相互に苦みに苦みを重ね不況に加ふるに不況を以てするであらう。

昭和八年六月廿七日名古屋中央放送局に於て



## 商業經濟の歸趨としての世界經濟

一〇

今の時代の我が國策は商業本位の産業立國か。人は靈なりや肉なりやと昔から争はれた。然し之は學者や理論家が筆や口で争ふ所の問題で、誠の人は靈だか肉だか分らぬ程にしかく、調節宜しきを得たる靈肉融合體である。人は靈として考へる。肉として食はねばならぬ。食はねばならぬから、人は生の當初より經濟生活に入りて、如何に食ふべきかを考へたのである。經濟には私經濟があり公經濟がある。又消費經濟があり生産經濟がある。人の經濟生活は、先づ私經濟消費經濟に始まるが、之が厚生に就て深く考ふるから、そこに公經濟や生産經濟が現はれたのである。巴拉ダイスに於けるアダム・エバの生活があつたとすれば、それは自然經濟の時代と云ふべきである。食ふも考へるも自然のままにまにであつたからである。我等の祖先には水草を逐ふて移住した時代があつたとすれば、それは遊牧經濟の時代である。春秋戰國の時代は軍國經濟の時代

である。最近の歐洲大戰が三十年戰爭の如くに永く續いたなら、關係列國の産業組織は全然軍國經濟と變つたであらう。もしそれ、歐洲中世紀は宗教經濟の時代とも云ひ得べきか。抑も封建制度の下では士農工商の階級別歴然として存し、無論軍國經濟ではあるが、治世のつづくに従つて、其の産業組織は農業本位となつた。鎖國的で自給自足を國策としたから、自然農業が第一位に置かれ、工商はあつても、從屬的産業の地位に置かれたのである。物々交換すら可能且つ容易の時代であつたから、商人の必要は認められなかつたのである。然るに、今の時代は商業經濟の時代である。即ち商業を中心として經濟政策が講ぜられねばならぬ時代である。商業經濟の時代であるからとて、農工の必要なしと云ふ譯ではない。農業も工業も盛んに奨励せられねばならぬが、然し奨励の意義が違ふ。農業經濟時代は自給自足を本義とし、商業經濟の時代は有無交易を本義とする。自給自足を本義とする時代の農業は、出来るだけ多種多様の生産をなして自家の必要を充たさねばならぬ。自家の衣食住に必要な總ての物品を産出せねばならぬ。然るに交易を本義とする

商業經濟の時代の農業は、多種多様の生産でなく、適地適産の方針に由り、最も其の地味に適したるものを一種でも二種でも大量に生産して之を市場に鬻ぐのである。自給自足主義では、是非とも米を作り味噌を拵へ屋根葺や棉其他何でも生活に必要なものを生産すべきであるが、商業經濟の見地からは、それは不經濟きはまる拙策と云はねばならぬ。地味にふさはしからぬ棉を作らむよりはよりふさはしき桑を作り、外國人に絹を着せて、綿布は安く買ふて着るべきである。何んでもかんでも自分についた米を食はねばならぬといふ道理はないから、算盤に合ふなら全國を桑田化して南京米を食ふことにするのが寧ろ商業經濟の本義である。工業に就ても亦然りである。算盤のもてぬ鐵の自給自足法を講ずる如きは商業經濟の主旨に背反する。それよりは算盤のもてる製銅に力を入れて、鐵と交換するのがよいのである。我邦の工業で相當の成功を爲し、輓近まで支那市場を獨占して居つた英國の綿絲業家を恐惶せしめて居るは實に紡績である。之は、要するに我邦が棉産地や支那市場に對してはよりよき地の利を占めて居ると云ふことと、又我が國民性が纖維工業に先天的優越性を持つて居ると云ふことが重なる原因であらう。此點から見れば、或

は毛織物工業も將來は我邦に最有望で、努力次第では英國のそれを凌駕することも容易であると推察せられる。

元來英國國民は最も早く商業經濟の時代に這入り、それが爲めに猫の額同様の一小國でありながら、世界金融の中心となり、諸民族の經濟生活の樞軸を握ることが出來たのである。經濟政策として自由貿易主義は、英國國民が多年取り來りし方針であるが、商業經濟の時代、即ち商業を中心としての産業立國には自由貿易の外に他に取るべき政策はない譯である。

保護政策の如きは商業經濟の自殺であつて、徒らに自給自足の農業立國の時代に復歸せしめんとするものに外ならぬ。それも、北米合衆國の如き國土豊饒人口稀薄の國に在りては、自國の國利民福の點から眺めては保護貿易が得策なるかの如くに一見思はるけれども、誠は左様ではないのである。

商業經濟時代の特色は國境超越と云ふことであり、國民經濟から世界經濟への推移といふことである。商業が國內的に止まつてゐる間は、なほ商業經濟時代とは云はれない。有無交易は此が世界的に及び、國際分業が行はるるに到つて、全きを得るの

である。世界に於て生産せらるるさまざまの物産の生産費を商人の立場から比較してみて、自國に於けるよりも安い生産費で生産せらるるものを、外國から輸入し、自國では外國に於けるよりも安い生産費で出来るものにその資本を擧げて投下し、これを外國に輸出するのである。さうすれば自國も大變儲かるし、同時に外國も利益するのである。即ち世界の生産力が其れだけ増加したわけであるから、世界全體が利益を蒙ることになるのである。此が國際分業の利益である。ところが、ここに保護貿易が行はれて關稅の障壁が設けらるると、この世界全體の浴する恩恵が薄くなる。輸入すればもつと安く買へるものが、保護關稅のために、國內で高く生産せられ、國民は高く反つて品質のよくないものを使用せねばならないことになる。その上、そこに投下されてゐる資本を、より自國に適した産業に投ずれば、もつと儲かる筈の利益が損になつてゐる譯である。今日では一切の産業が有無交易の商業的立場から考察され、一の工業を起すにも、その生産費を世界の廣きに亘つて比較考量し商賣になるかならぬかの採算をやらねばならぬ。商人の採算に任せ

て置けば、ひとりてに世界の利益は増進されるわけである。

此れが必ずしも吾輩の獨斷にあらざる證左として、先頃、歐洲並にアメリカ十六ヶ國の財界の巨頭五十六名が署名して、歐洲經濟復興に關する宣言書を發表し、先づ第一に國際貿易上の關稅障壁の撤廢を主張してゐる生きたる事實を擧げようと思ふ。彼等實業界の將帥達は、大戰後の國際貿易上の種々なる制限が、國際貿易の自發的發展を妨げてゐることを指摘し、かかる不自然な状態を馴致するに到れることを政治家の責任に歸して居るのである。即ち自由貿易こそ、ヨーロッパの經濟的復興に對する最上策であると云ふのである。この宣言は實に彼等が右のやうな理由に目覺めたことによるのである。この宣言書發表は、米國においてすら、相當の反響を惹き起してゐる。特に保護關稅を旗印としてゐる共和黨の黨員であり、金穴であるモルガン氏を初め六名の米國財界の大立物が右の宣言に署名してゐることは、注目し値ひすることである。アメリカは大戰後、その富、世界に冠絶するに至つたのである。よつて若ら、大戰前の英吉利同様に最早や、保護貿易の必要はなくなつたのである。よつて若し今後尙ほも、保護主義を維持すれば、歐洲の精良な商品の競争がなくなり、その結果、

自國の經濟的發展は反つて行詰るであらう。吾國も經濟力が次第に充實して來たので、保護がなくとも、商人の手で獨り立ちが出来るであらうと思ふ。そのためには、産業の經營が常に世界經濟に即する商業經濟の眼によつて行はねばならぬ。それには、右のやうな理由で、先づ自由貿易制度をとることが必要であると信ずるのである。

## 名古屋高商の教育方針

十周年記念式に於て

本日本校創立十周年記念式を舉行するに當り、朝野來賓の臨場を辱ふしたるは、光榮の至り、感激に堪えぬ次第であります。

本校は、大正十年五月一日開校、爾來校運順調に進み、其今日あるを致せしは、内は教職員一致協同の努力と、學生一同の順良なる氣風に待つ所少なからざるも、亦今日臨場の各位を殆めとし、其他多數の方々、の御後援の賜なりと信じ、今日此機會に於て厚く御禮申上ます。

實は、極端なる不景氣と云ひ、英國の金貨本位停止、北滿事變の突發等の時局に鑑み、本日、の記念式舉行を遠慮致すべきやの内議もありましたが、本校の創立に際しては、本縣本市の多大の寄附金に由るものであり、且は本校今日の校運あるは、全く社會一般特に皆様方御一同の厚き御同情の賜であれば、時局の如何を問はず、本式を舉行して

感謝の微意を表するが當然なりとの結論に基き、此式を舉行致すことになつた次第であります。さて本校の現状に就きましては、只今學事報告で申上げた通りであります。私に、爰に本校教養の方針と、將來の希望とを述べて、今日の式辭に代へて御清聽を煩はしたいと存じます。

現今我國の教育制度では、産業教育の最高機關は大學と専門學校とであります。大學は理論を主として應用に兼ね及ぶ、専門學校は應用を主として理論に兼ね及ぶ。大學と専門學校とは世間で考ふるが如くに階梯の段違にあらずして種類の別である。兩々相待つて國家産業の發展を期する次第であり、然して、本校は其産業教育最高機關中の商業専門教育機關であります。商業は、現代の社會制度に於て、如何なる位置を占むべきであらうか。

封建制度の下に、自給自足の經濟政策を取りし時代には、商業はなくてもがなの職業視せられた。論より證據、士農工商の階級別で、商人は四民の最下位に置かれ、百姓は御國のお寶なりと云はれしに、素町人の分際でなごと商人はいやしめられた。それ

も其筈、商人が働けば働く程、自給自足の經濟政策が破れ易いからである。然るに時代は一變した。人口の急激なる増加、國民の生活欲望の向上、科學の進歩に伴ふ産業機械並に交通機關の發達は、世界の各民族をして、知らず識らずの内に、自給自足の經濟政策を捨て、有無交易の經濟政策に入らしめた。

有無交易經濟の中心機關は勿論商業である。商業は總べての産業の中心點である。今は商業なくしては何等の産業も起り得ぬ。

封建時代に、國家産業保護の爲に戦ふたは武士であつたが、今の有無交易經濟の時代に、世界市場に於て、國家産業振興の爲に戦ふべきは商人である。即ち商人が武士に取つて代はるべき時代となつたのである。して見れば、昔武士に適用せられたる教養は、取りも直さず、移して以て今日の商人養成に適用せられねばならぬ。

斯る見地より、本校は先づ商業家としての人格完成と、時代に適切なる知識技能の修得とを教養の第一位に置くのである。

本校の二大信條は、「學生は學生らしくあれ」「學生は學生としての本分を忘るゝな」である。學生らしくあれとは、衣服の着方、髪の刈り方、言語動作、座作、進退、總べて學生

らしく處せよとの意義に外ならぬ。學生としての本分を忘れぬとは、本校入學の日的を一貫すると云ふことに歸する。手短かに云へば、學業にいそしみ修養に精進すると云ふことである。不可抗力の場合を除く外、課業に缺席するな、うら恥かしき行動するなと云ふことである。之れ等二ヶの信條は、今は我校の校風の基礎をなして居るが、其儘移して以て社會生活に適用し得ると私は信ずる。

本校創立以來、今日迄只一人の例外を除き生徒を公に處分せなければならぬやうなことがなかつた。社會風俗頹廢の折柄、社會思潮動搖の折柄七百有餘の青年教養の任務を託されたる本校主宰者が、過去十年間只の一回だも、苦い顔をせなければならぬやうの事件に遭遇せなかつたと云ふことは、何を物語るものでありませうか。

本校此處數年間日々の出席率は平均九十八パーセントであります。入學より卒業まで三ヶ年間、無遅刻無缺席の者には、卒業の際に皆勤メダルを與へて居りますが、本年は貳百十五人の卒業生中六十八名、毎年全卒業生の約三分の一を下りませぬ。

二大信條は今は學校よりの強要でなく、學生等の信念の發露であります。最近學校側より二つの要望を提出致しました。其一は、學校は家庭の延長であらしめたい、其

二は學校は學生の身心の保護所であらしめたいと云ふことであります。

近世教育の弊として、私共の通感するは、學校空氣の冷めたいと云ふことであります。冷めたき空氣の中では草木も芽生え致しませぬ、如何にして我校の空氣を暖くあらしむべきか。それが學校は家庭の延長であらしめたいとの第一の要望の出た所以であります。

近來一般學生の健康状態が兎角面白からぬ。學成り業遂げて身は病床に臥す。何と情なきことでありませぬか。然も近來は、身の病ばかりでなく、心の病も伴ひ易い。教育最高の學府に生まれつゝあるものが、心の病にかゝるとは、いともつれなき事である。之れが學校は學生の身心の健康の保護所であらしめたいとの第二要望の現れた所以であります。

私は之れ等二ヶの要望が、要望に終ることなく、之れ亦學生は勿論、學校全體の信念の發露として實現せらるゝの日の、速かに來らんことを期待して居るものであります。教育の生命は永遠であり、其理想は高遠である。して見れば、本校は十年の星霜を経過したとは云ひ乍ら、未だ基礎工事の一端を成就したに過ぎぬ。今より基礎工事の

完成上層建築の仕上げには限りなき歳月を要するであらう。希くは、今日臨場の皆様方、我等に鞭撻を加へ、我等の忍耐をして永へならしめ給へ。時代は國際産業の時代なり、我校は國際産業の第一線に立つべき闘士養成の機關である。我校の命運は、名古屋市の發展を占ひ、延いては大日本帝國の興隆を物語るものであると信じ、我等の任務の重大なるを知りて、切に皆様方の御援助を希ふ次第であります。

最近我等を驚したるは、其領地の廣大は日没を知らぬと謳はれ、海外投資四百億圓、貿易外の受取勘定年額三十億圓を下らず、盡きせぬ富源の所有者と認められたるあの、大英帝國が、最近僅かに八千萬ポンドの外國短資の取付に遇ふて、金貨本位停止の張札をしたと云ふことである。

何んだか日の下開山横綱が、禪カツギに、譯もなく土俵の外に押し出されたやうの心持がする。さううしてあの横綱が、そんなに弱つて居つたであらうか。

ソレには幾多の直接原因があらなれど、私は、間接なるも然も重大性の原因として、(1)行き過ぎたる社會政策(2)誤りたる教育方針の二つを指摘したい。社會政策の如

何に付ては其道の識者にお預けするとして、私は教育者の一人として英國民の誤りたる教育方針に就いて我國民の反省を促したのである。

歐洲大戰が、世界各民族の自覺を促したるは、國家は少數の大才に由りて發展さるゝとの時代は過ぎ去つた。今は國民全體の協力に由りて支持されねばならぬ。それには國民全體を徹底的に教育せねばならぬと云ふことであつた。

國民全體の徹底的教育の旗上げの先鋒は、千九百十七年、米國のスマイス・ヒューズ・アクトで、次いで千九百十八年、英國のフィッシャー・アクトである。

兩者何れも國民全體の徹底的教育を標榜して居るが、其の内容に於て、且つは案の運用精神に於いて教育施設上大なる相違を來した次第である。

米國はスマイス・ヒューズ・アクトに由り、國民全體に實業教育を徹底せしめんとした。各種實業學校の増設、實業補習教育義務制度の實施、上は大學より下は小學に至る迄實業科目の加設に由る教育の實業化。(一例を挙げれば大學に料理科・ホテル科の如きを新設して其卒業生に學位を授與するが如き)之が爲に、米國が今日實業教育のみに新に費す所の費用は中央費、地方費合せて年額千五百萬ドル以上。一口

に申さば米國は鋤とハンマーと算盤教育を國民全體に徹底せしめんとしたのである。英國も亦フィツシャースアクトに由り義務補習教育制度を實施し、無産階級者の爲に盛に中等學校を増設し、無月謝は勿論、學用品全部を公給し、其上滿十六歳以上の生徒には、親元へ一週五志乃至七志の給與までなして就學を奨勵した。由來英國は紳士教育の本場である。其典型はシルクハットに燕尾服を制服制帽とするイートン・カレッジである。英國に於ける教育思潮は、イートン理想に由りて永年支配されて居つた爲に、新に無産階級の爲に普く設置されたる公立中等學校も、出来る丈イートン理想に近かからしめんと當事者は努力したのである。右様の教育氣分は、補習教育にすらも適用され勝ちであつた。一口に申さば、英國はシルクハットとケーンの教育を國民全體に徹底せしめんと努力したのである。

過去十五年有餘、教育奨勵の結果、米國はハンマー氣分の紳士を、英國はシルクハット氣分の労働者を多數に社會に送り出したのである。

シルクハット氣分で労働氣分乏しき労働者に、失業すれば、獨身者なら一週十七志、女房子供（二人）があれば一週三十志、（月額約六十四五圓）病氣をすれば療養手當

斯も行き届いたる社會政策、現在英國では失業率が天井知らずに上昇の一路を辿つて居るのは無理からぬ次第でありますまいか。

我國教育界の現状を見るに國民舉つて形式教育を尊重しシルクハット氣分は今盛に燃えつゝある。實業教育を受けつゝあるものすら、鋤やハンマーや算盤を厭ふてシルクハットを憧憬するもの少くない。然るに今の時代はシルクハットの頭數で國運興隆は出来ぬ。イヤ應なしに鋤やハンマーや算盤の力に山らねばならぬ。時代産業の第一線に立ち國運の興隆を負ふべき闘士養成の任にある私共は英國の現状に刺戟され此式典に際し我等の責務の重大なるを切實に感ずる。今日臨場の皆様方只今とは申しませぬ、深夜人定まつて後、靜かに英米兩國の教育方針と我邦のそれとを比較し給ふて邦家百年の大計の爲に我等教育者を永へに成功の域に導き給へ。

昭和六年十月三十日



# 長者長命論

二六

## 東久邇宮殿下御前講演

名古屋ロータリークラブに於て

宮殿下へ申上ります。言葉に上下を着せますと舌が窮屈がつて御話しが致し苦う御座いますからドテラ言葉で御話し申上ることを御許し願ひたう存じます。昨年の暮、ロータリー最終のミーティングで三ザル長命の御話しを致しました。三ザルとは、金ケサル・色ケサル・勝ケサル。人は兎角、金ケと色ケと勝ケの爲に思はぬ苦勞をして若死を致します。往航年齢の間は、精力の補充が充分に出来ますから、金ケ色ケ勝ケ勝手次第であります。復航年齢に達すると補充が不十分でありますから、三ザルの境に住すると云ふことが、長命最善の方策であると申したのであります。實は前に、勝沼博士が長命論を致されましたが、會員諸君の多数が、長命の條件にかなつて居らぬらしいとて心配顔が多かつたやうでしたから、私は誰にでも出来る

長命策のつもりで、其御話しを致した譯であります。然るに、之は以ての外の不評判で、人間味の無いことを、云ふ奴ぢや、ロータリーの主義綱領に反しやしないかなぎ、云はれたかも知れませぬ。

新年には御機嫌取りの積りで三モチ長者論を致しました。三モチとは、金モチ・色モチ・力モチ・即ち勝チモチであります。新年三日、我邦津々浦々迄餅で祝ふ習慣になつて居ります。餅は持つに通ず、三日間つづけて餅を食つて、三モチ長者にならうとのことでありませぬ。武士は元旦に勝チ餅、二日に色餅、三日に金餅。商人は元旦に金餅。若い娘さんや色里商賣の人は、元旦に色餅。我々教育者は元旦に子餅。子餅は三モチの中にありませんが、縁をたざれば矢張り色モチ。兎に角新年には三日つづいて、餅を食つて、三モチ長者たらんとして努力奮闘生活を始める。年の暮には、長者になつて長者氣分でもうよいと、金ケサル・色ケサル・勝ケサル・三ザルの境に住し安心立命して長命する。

人生航海の往航には三モチ長者たらんとして努力する。長者たらんには貧乏人根性のたりない、が必要である。長命ならんにはもう足りた、の長者氣分が必

要である。金持であると思へば金ケが去れる。色持であると思へば色ケが去れる。勝ち餅であると思へば勝ちケが去れる。人生復航には三ザルの境に住して安心立命し長命すべきである。斯く御話致しました。

今日は、七福神是福長者長命論

福の神は世界各民族共通の神。何れの民族も福の神崇拜時代を經過す。神話の最も發達したるは希臘と羅馬。之はホーマーやヴァージルの如き大詩人に由りて歌はれたるに由る。福の神の最も發達したるは我邦。之は天台眞言の密教徒が未來の應報と現世利益とを結び付けんとしたるに由る。室町時代には、三面大黒と稱する三面福の神が流行した。即金持の神である大黒天と力持の神である毘沙門天と、色持の神である辨才天とが一體となりたる福の神、即三モチ長者の神である。

七福神の流行は徳川時代である。七福神とは、夷子・大黒・辨財天女・毘沙門天・布袋・福祿壽・壽老人。七福神の由來を尋ぬるなら、彼等は悉く舶來神。大黒は大國主命説あるけれど、實は毘沙門天辨財天女と共に印度より渡來の神。布袋福祿壽壽老人は支那より渡來の神。支那の福祿壽は、福と祿と壽の三神であるが、我邦に來りては福祿一神となり、外に布袋と壽老人の二神が加はつたのである。夷子は人皇三十四代推古天皇九年に、聖德太子が市を始めて賣買の術を教へ、夷子の神を守護神とし給ふたとある。して見れば、彼は七福神中最古參の神。然し彼れとても國産神との考證なし。然も「夷」の文字より判ずれば、外來神たることを名詮自性するにあらざるか。出来る丈國産的に解釋しても、蝦夷の神ぐらいなるべし。

七福神はいつ頃から我邦にもてはやされるやうになつたか。文獻としては、梅津長者物語りに、七福神の集團酒宴の物語がある。然し此物語の著者も年代も不明であるが、徳川時代に、七福神寶船七福神乗合船が市井にもてはやされ、其最も盛なりしは元祿時代のこと、かなれば七福神は徳川時代の所産ならん。天海僧正徳川家康に見參の折に、土産として自畫自讃の七福神を贈呈したとのこと。

又一説には、見參の折に家康が、佛イヂリをせず、極樂まうでの道なきやと尋ねたら、天海即座に紙硯を乞ふて、大福に七福神を描き、是福と讚して家康に示す。家康暫く之を眺めて、ア、分りました有難うと云ふたとある。極樂は福の究み、七福神の境遇を兼ね併せたなら、是れぞ福の究み即ち極樂。七福神の描き方は繪描きに由りて意匠が違ふ。天海果してドンナ描き方をしたか不明であるが最も普通なるは、毘沙門天は甲を被り鉾を持つて居る、彼れは力持の神、勝ちケの神。惠美須は釣竿かついて鯛をか、へて居る。蝦で鯛とて商人の神。大黒は米俵の上で肩に袋、手に槌を振り上げて居る。之れ農と工との神。惠美須大黒併せて金持の神、金ケの神。辨財天女は琵琶を持つて居る。色に音楽はつきもの、即色持の神、色ケの神。之れ等神々の徳を兼ね併はすれば、金持色持勝持の三持長者。布袋福祿壽老人は長者氣分の長命者。惠美須大黒毘沙門辨財天は人生往航の神。之れでは足りぬ、モツと働けモツト働け。之れ往航の神の氣位。布袋福祿壽老人は人生復航の神。琴歌に、そばに並びし福祿壽、長き頭をふりたて、福はこちらへ祿は又、おはらの内へたつぷりと、やよまちたまへ我こそは、こんごん身ぶんの初より、何にく

れとなくほねおりて、億萬歳をへたればこそ、今では樂な隠居かぶ、是ぞまことの壽老人。布袋は腹をか、へつ、高らかにこそ笑ひける。是ぞ誠の復航氣分。人生往航復航其宜しきを得て、七福神の境遇に住するならば、是ぞ福の究み即ち極樂。極樂何ぞ遠きに求めん、我胸三寸の中に在り。娑婆即寂光、煩惱即菩提。秀吉は、天下持ちになりながら勝ち氣去り難く、朝鮮征伐を企てた。復航年齢に氣付かず、聚樂邸を起して贅澤三昧に生活し孫か彦かのやうな淀君を手に入れながら、それでも尙飽き足らずに、淀君に嫉妬心を起させるやうの行動に屢々出でた。彼は三持長者でありながら、長者氣分になり難く、金氣色氣勝氣を去りかねて、遂に六十三歳で自分は終り、間もなく其家も亡びたのである。然るに、家康は天下持ちになつた後は、源氏の長者で満足した。老いたりと、の自覺に先つて、將軍職を秀忠に譲り、駿府に隠退して質素儉約に生活した。勝氣金氣を去つたのである。彼れ果して色氣を去つたかドウかは私は知らぬ。彼れ子孫を誠むるに堪忍の二字を以てした。天下持ち長者になつて見れば、人と争ふ必要なく、争はなければ負ける氣遣はないからである。長者でありながら長者氣分になれず、まだ足りない、であせるから金持長

者がスカンピンになつたり、色持長者が女房に逃げられたり、勝ち持長者が城を枕に打死の憂目を見たりするのである。何事も堪忍々々なる堪忍は誰もするならぬ堪忍するが堪忍。それこそ長者の堪忍である。彼れ又知足安分を子孫に教へた。之れ等は總べて、七福神是福に由りて得たる家康の悟道であつたではあるまいか。家康は佛イヂリをせなんだが、毎元旦には、天海僧正より贈られたる七福神を、内書院の床にかけ、對座稍半時、默考したと傳へらる。平清盛は、頭を丸めて袈裟衣を身に着けた。足利義滿は金閣寺を北山に起し、義政は銀閣寺を東山に起して、共に佛イヂリをしたが、彼等は人生の悩みを超越し能はなんだ。極樂往生を遂げなんだであらう。家康が十萬億土先きの極樂に行つたかぎうかは知らねども、兎に角現世では、是福安樂の境に住し得たのは、是福七福神の賜であつたであらう。私は名古屋ロータリーの諸君に進言したい。家康の故智に倣ふて、毎元旦には七福神を掲げ、正月三ケ日餅を布袋腹になるまでタベ込んで、ハヤムと三モチ長者になりすまし、長者長命の秘策を講じ、ナゴヤロータリアンはナガイロータリアンたらんことを偏に希上候。恐惶謹言

昭和六年一月十二日

## 至は誠一貫

第七回卒業證書授與式に於て

歲月流水の如しとは實にや。諸子を我校門に迎へしは誠に昨今の如くに思はるるに瞬く間に三年の星霜を経過し、今や諸子を校門から送り出すの時來つた。

諸子は在學中能く本校教養の趣旨を體得し、誠に善良なる學生生徒であつたが、今より社會に出づるに當り、又善良なる社會員となるであらうことを我輩は期待する。

諸子は在學中我校の二大信條を遵守して、我校風の發揚に努めた。我校の二大信條は直に移して以て處世の要條となし得るであらう。予は諸子の卒業に際し、至誠一貫の四字を送り、己れは己らしく己れの本分を忘るなと註した。之れは、我校の二大信條を處世の要條に適用せよとの暗示である。諸子己れを偽るな。己れを飾るな。諸子、職業即宗教・職業即道德の信念にて邁進せよ。社會奉仕の最大方法は、己れの職務に忠實勤勉なるにありと知れ。

諸子、職業生活に暖味を加へよ。人に交はるに暖かくあれ。社會の風波は、人が相互に暖味を缺くから起るのである。諸子、自己の健康を擁護せよ。精神的に、將た肉體的に。肉體的に健康を損はば、動物としての死に導かれ、精神的に健康を損はば、人としての死に導かれるであらう。予は諸子を社會に送り出すに就き、何となく可愛い娘子を實業社會と云ふ大家に縁付けるやうな氣分がする。それにつき思ひ出さるゝは詩經の一節である。

桃之夭々、灼々其華、之子干歸、宜其室家。  
 桃之夭々、有蕢其實、之子干歸、宜其家室。  
 桃之夭々、其葉蓁々、之子干歸、宜其家人。

之は非常な良縁を得て一家繁榮の有様を謳ふたものである。予は諸子が夫れぐゝ實業社會てふ大家に良縁を得て成功繁榮の域に達せんことを期待し、此に詩經を借りて諸子の前途を祝福するのである。

昭和五年三月九日

## 至 一 貫

### 今は商業經濟の時代なり

秋田市商業學校十周年記念式に於て

私書生時代にお國自慢の座談會でコンナ事を聞かされた。「出羽の國、秋田大館能代港、横手本莊湯澤町、土崎船川男鹿半島、黒川豊川濁川、銅山油田金銀鑛、黄金堀り出す小坂山、秋田美人に千秋公園、農林鑛産富貴富貴、露の傘銀細工、能代春慶畝織、ブリ子納豆曲ワツバ十和田湖上に掉さしてハタ／＼鍋に爛漫酒、小町娘に酌をさせ、ヅウ／＼辯を聞かしやんせ。ヤアトセ、ヨウヤナ、キツタカサイ／＼、ドッコイドン」。

秋田市を知つた私の、今の直觀的印象を有の儘に申せば、當市は、東北には珍らしき明るい町で、何となくみやびて居つて、然も活氣あり。統計を見て驚かされたは秋田富限の龐大さである。活氣のあるのも明るいのも金の光に由るのであらう。秋田美人の名に背かず、女は仲々奇麗で淑かなり。男は聊かゴツつくが氣概があつて面白

い。路は大きくて美事であるが、其味は至つてまづい。ハタ／＼は小さくて貧相であるが、其味はよろしい。私はまだ山廻りをして居らぬから、日本一と云はれて居る男鹿の景色も、十和田湖の風致も、知らないし、小坂の金銀にも巡り遇はない。ヅウヅウ辯は聴きなれて見れば仲々愛嬌あつて親しみを感じる。一口に申せば當市は何となく人を引き付ける。私は来る度毎に引き付けられ、其都度何となく離れにくいやうな感じがする。

私が始めて當市にお近付きになつたは、秋田鑛山専門學校開校式、舉行の際であるが、其當時私が奇異の感じを致したは、是れ丈の都會でありながら、商業教育機關の缺乏して居つたと云ふことであつた。然るに幾年もなく本校が創立せられ、私の最親しき友人、黒沼義介氏が本校々長に任命さるゝと知つた時は、秋田の爲、邦家産業開發の爲に、大に喜んだ次第である。云ふまでもなく當代産業の中心は商業である。封建制度の下に、自給自足の經濟政策を取つた時代には、商人はなくてもがなと思はれたが、今の有無交易を本義とする、商業經濟の時代に於ては、内外を問はず、經濟戰爭の第一線に立つべきは商業家である。封建制度の下に、士農工商と四民の最下位に置か

れたる商人が、今は商工農士と、四民の最上位に置かるべき時が來たのである。今よりザツト百餘年前に、マルサスと云ふ英人が、人口論を書いて、「人口は二、四、八、十六と幾何的級數で増殖するに、食料は二、四、六と算術的級數にしか増さない。それに土地は限定的であり、然も収益遞減法によりて支配さるゝから、一定の年限に達すると、食料品缺乏の時期が到來して、大飢饉が伴ふと云ふた。我國に就いて見るに、人口は著しく増加した。私小學校時代に、人口二千八百萬と歌ふたことを記憶して居る。然るに最近の國勢調査の結果はまだ分らぬが大正十四年に行はれた國勢調査の結果によれば八千三百四十五萬六千人と云ふことである。マルサスの所論に従へば、今の我々は餓死して然るべき筈であるに、然も我々は明治維新以來飢饉を知らぬ。我々は子供の折に寝物語りに、天保の飢饉とか、安政の飢饉とかの慘狀を聞かされたことがあるが、今の小學校の生徒に、飢饉の意義を説明し得るものが何人あらうか。然らばマルサスは嘘を云ふたか、嘘ではない。之れが説明如何。

説明の鍵は、經濟政策の轉換にある。農業本位の自給自足經濟から、商業本位の有無交易經濟に移り、商業家が經濟戰爭の第一線に立ち、世界を互市場として、需要と供給

とを能く調節するからである。今の我々は、昔の王侯貴族よりもいくら贅澤して居るか分らぬ。世界中の珍味佳肴を、僅の價で我等の食膳に上すことが出来る。我等の絹布で、ロンドンやニューヨークの乙女を飾る代りに、我等は彼等の毛織物を着る。然も其價は至つて低廉である。かゝる變化は、商業家の活躍によりて持ち來たされたのである。ロシア勞農ソヴィエト政府は、當初個人商業を彈壓した。其結果は如何に。飢饉に伴ふに飢饉を持ち來した。彼等は驚いて個人商業を回復した。誠に日本全國の商業機關を一ヶ月間停止すと假定せよ。飢饉は到る處に起るであらう。國民全體が如何に苦むであらうか。かゝる見地から、「商業は當代産業機關の中樞なり」との結論に到達するのである。さすがは秋田人士なり、十數年前既に見る所ありて其結果本日此に本校創立十周年の記念式を舉行せらる。私は衷心、邦家の爲に、本校の前途を祝福して止まぬ次第である。

由來秋田は名士續出の地。分けても歴史上、私が崇敬措く能はざる、平田篤胤翁と、佐藤信淵翁とは、此地彌高の神と承はる。佐藤信淵翁は經世濟民の國士なり。又最近刊行せらるゝと聞きしが、平田翁の遺著は、實に我邦文教の淵源である。前には水野文部大臣、今は田中文部大臣、文教の淵源に育まれたる秋田人士を、文教の首腦と仰ぐ我等國民は大に意を強ふして可なりである。秋田名士多々ある中で、私は名古屋に住むの故を以て、故名古屋商工會議所會頭上遠野富之助翁を紹介したい。翁は此地の人、名古屋在住三十八年幾多の會社銀行の重役とし、或は名古屋商工會議所會頭として、今日の商工都市としての名古屋市の建設に、大なる貢獻をなしたのである。翁、晩年病を得て其立たざるを知るや、翁唯一の遺産たる其邸宅（評價約五六十萬圓）を市に寄附せんことを申出でた。附して曰、予は一介の書生として名古屋市に來り此處で働かして貰ふて今日あるを致した。就いては何か市民諸君へ謝禮をと思へども、今予の手に残りし財産らしきものとは、此邸宅のみである。願くは之を市に寄附して感謝の微意を表したいと。流石に、秋田人士の面目の躍如たるものが伺はれるではありませんか。本校卒業生諸君並に在校生諸君に申す。小にしては秋田の將來大にしては我國の





商人となつて飽食安臥せんよりは、食はなくても武士は武士なりとの氣品を保ちたしとの意を云ひ顯はしたものである。然るに時代は一變して今は商工農士と商人が四民の最上位に在るべき時代となつた。それは科學の進歩就中金融交通兩機關の發達につれ今は商業を中心とする有無交易經濟の時代となつたからである。今は世界的産業戰爭の第一線に立つべきは商業家である。農工士悉く商に由りて統率さるべき時代である。然らば昔の武士の氣位は今は商業家の氣位であらねばならぬ。商は食はねぎ高揚子、國家の盛衰は一にかゝつて其國の商人の氣品に在りと云ふ時代になつたのである。斯る際に諸子は商業の最高教育機關たる本校より月桂冠を興へられたのである。之れ予が艱難庸玉汝の五字を諸子に贈り諸子の反省を促し諸子の完璧を希ふたる所以である。

予は嘗て云ふた尾張名古屋には金の鯨鉾がある。應仁戰國の時代に鉾の大閤秀吉を出して天下を平定したる尾張名古屋は、今の産業國難の時代に於て、又能く金の太閤何某を出して、國難を安定するの瑞相なきにあらざるかと。

鉾の太閤秀吉は先づ織田信長の草履取として職を得た。彼も亦戰國時代とは云ひ

乍ら就職難に出遇ふたのであらう。草履取としての彼は、細心用意周到、深夜であらうが、早朝であらうが、信長の聲に應じて伺候した。「猿めは何時寝るであらうか」と信長に思はしめたとのことである。足輕兵卒に出世した彼れは、幾度となく死線を突破したとのことである。

諸子に借聞す。諸子に草履取となる忍耐ありや。足輕兵卒として死線を突破するの勇氣ありや。草履取となるの心掛なくして就職難をかこつものあらば秀吉は何と云ふたであらうか。現代人の就職難とは就職難と云はんより寧ろ樂な職業難と云ふべきであるまいか。

足尾銅山王古河市兵衛は豆腐賣をした、億萬長者安田善次郎は鯉節屋の丁稚小僧であつた。共に之れ非凡の才人。玉磨かざれば光なし。人を磨く砥石は艱難である。艱難汝を玉にすとは之を云ふたのである。予は前の日本興業銀行總裁故小野英次郎君を畏敬する。予が始めて米國ミシガン大學に遊びし時、氏は同大學大學院に在學し博士候補者として研究しつゝ、あつたが、氏は同時に學生専門の食事屋のウェイトであつた。氏に食事の給仕をして貰つた幾多の日本學生は、歸朝后あらまし氏

のお世話になつたこと、思ふ。大才にあらざれば思ひきつて草履取りにはなれぬ。韓信漁夫の勝をくゞる。路人見て之を笑ふ。韓信思へらく燕雀何ぞ大鵬の志を知らんやと。予は諸子のアルママーターを代表して深く諸子に誠む。諸子心身の健康を重ぜよ。身體の健康は比較的注意せられ易きも精神の健康に至りては甚だ等閑に附せられ易い。身體を犯す病は数多いが精神を犯す病は数知れぬ。中にも最恐ろしきは驕慢病である。三國誌に徐庶單福分れに臨んで劉備立德に告げて曰伏龍鳳雛の中一人を得ば天下を平定せんと。伏龍は諸葛孔明を云ひ、鳳雛は龐統を云ふたので共に當時拔群の名士であつた。立德先づ孔明を得て軍師と仰ぐ。次いで龐統も又來りて立德に事ふ。龐統軍に臨みて孔明の指揮を受くるを潔しとせず、彼れ自ら臨機の所置を取りて戦死す。之れ龐統の軍略拙なるにあらず、彼れ驕慢病に罹り居りしに偶々孔明に對する嫉妬心起り爲に智力的盲目者となりしが故である。諸子の前途は永し。浮沈交々至るべし。沈みたりとて失望するな、浮きたりとて驕慢なるな。人間七轉び八起きと云ふ。戦へば必ず勝つ、七十幾度迄勝つた頂羽は最

后の一戦に亡び、七十幾度まで負けた漢の高祖が、最後の戦に勝つて支那四百餘州を掌握したではないか。將に旅立たんとする我子を、門邊に送り出したる時の父母の心情は、千言萬語を費すも之を云ひ盡し難かるべし。予の今の心情も亦然り諸子之を諒せよ。

昭和六年三月八日

人事の盡きし天命の懸念

## 人事を盡して天命に應ふ

四六

原文次郎君を追悼す

名古屋の名物男原文次郎君逝けり。君は誠に天下の奇才なりき。君、名古屋に来るや、年ならずして、名古屋の原として普く東西に知らる。君の云ふ所、屢々人の意表に出でしも、然も常道を逸せず。君の服装は一見異様の感ありしも、靜かに之を視れば、誠に澁い幽雅な好みであつた。君と語れば常に快感を覚えしも、君は人に諂らうこととはなかつた。時には大言壯語するか如くありしも、未だ嘗て人の情を破りし事はなかつた。人に阿ねらず、人に逆らはず、然も自ら信ずる所は、何人の前でも臆面なく堂々乎と主張した。

昭和二三年の頃と思ふが、愛知縣の主催で、國産振興の講演會が豊橋市で開催され、其講師は、君と、斯く申す我輩とであつた。兩人共に大した腹案もなく、演壇に現はれたのである。我輩は洋服姿なるに、君は和服姿、然も骨董式の和服姿であつた。君先づ

演壇に上り、我輩の洋服姿を題材として喋々と辯じ立て、行き詰り相になると我輩に、横槍を入れるべく挑戦したのである。横槍が一本這入ると、待つて居ましたと云はん斗りに「チヨウクハッシ」と受け流し、千言萬語盡る所なく、聴衆をヤンヤと云はしたのである。斯くして、君は二時間に亘つて長廣舌を振つて、滿堂の聴衆を心酔せしめたのである。然も、君の講演は條理整然、學者らしい口吻こそなかつたが、博學多能、其造詣の淺からざること、聴衆と、我輩とに知らしめたのである。之れが、我輩をして君を名古屋高等商業學校講師として迎へしめた所以である。君の名古屋高商講師としての君は、教壇に現はれた其瞬間から名物先生になつたのである。只恨むらくは、君は就任後間なく洋行したり、歸朝後間もなく健康勝れず、それやこれやで、君の教へ子ぎもは割合に少なく、従つて君に教師としての眞の技能を、充分に發揮される機會の少なかつたことである。我輩は爰に衷心より、君、原文次郎の死を惜む。我輩が君の死を惜むは、君の生其者に對する女々しき愛惜にあらず。生者必滅、會者定離。人間誰れか死を免れ得ん。我輩が惜むは、天が君の如き偉才に、尙ほ數年の壽命をかさざりしことを惜むのである。

四七

君は世の爲に生き、社會の爲に生きんとした人である。天若し君に數年の壽命をかさば、名古屋の名物男原文次郎は、天下の名物男原文次郎となつたであらうものを。聞くならく、君は生前骨董をめでたりと。又、君は遺言して、原文次郎の骨を、永く名古屋醫大に残さんとせりと。君は死して自らを骨董化してまでも、尙世を裨益せんとの考へありしか。

頌に曰、虎は死して皮を残し、人は死して名を留む。原文次郎君死して既に名を留め、然も骨を残さんとす。君自ら我は無宗教なりと。善い哉、無宗教は即ち宗教の極致なり。生死は即ち涅槃なり。娑婆は即ち寂光なりと知りし文次郎、君は人事を盡して天命に應へたり。今此世に何の名残りかあらん……でもあるか、あるも可なり、なきも亦可なり。色即是空、空即是色……喝。

## 成功の道は既に我に在り

第九回卒業證書授與式に於いて

諸子を迎へしは昨今のやうに思はるに、今ははや三年の星霜を經過し、爰に卒業證書を授與するの時到了。諸子は在學中誠に善良なる學生であつて、能く我校風の發揚に努めたが、今より社會に出るに當り、又能く善良なる國民社會員であらうことを、予は諸子に期待する。

諸子在學中、予は常に恐れた。それは諸子教養の任重きに關はず、其至らぬ所多かりしことを。今卒業に際し、諸子が果して本校卒業證書に價する丈の訓練と修養とを得たであらうかを憂慮するのである。諸子が將に校門を辭せんとするに當り、予は何ものかを諸子に贈りて、諸子の前途を祝福したい。富者は人に贈るに財を以てし、仁者は人に贈るに言を以てす。財は一度用ゆる所あれば必盡くれども、言は用ゆる毎に其效を増す。予は富者にあらざれ

ば敢て仁者を學んで諸子に盡くる無き言を贈らん。勤勞人情義理是處世之要諦也、勤勞以護職、人情以接人、義理以行道、乃靜夜願已無悔。之れ予が諸子に贈る所の送別の辭である。人の生活には様々の様式あれど之を概括すれば、經濟生活と社交生活と政治生活との三様である。經濟生活には勤勞、社交生活には人情、政治生活には義理、之れが處世の要諦である。諸子は之れ等處世の要諦を體得することに由り、必ずや成功の彼岸に到達するであらう。

諸子は在學三ケ年、我校の二大信條、二大要望を基礎としたる我校風を充分に體得したりと信ずる。今卒業に際し、諸子に贈りたる處世の要諦も、誠は我校風を漢文字に書き顯はしたるに過ぎぬことを諸子は知つたであらう。予は諸子の前途を祝福し、諸子の成功を祈る。諸子は何れに成功の道を求めんとするか。

盡日尋春不見春、芒鞋踏破隴頭雲、歸來笑撚梅花嗅、春在枝頭已十分、終日春を尋ね歩いて草鞋で地平線まで突破したけれど春に廻り遇ふことが出来なんだ。失望して歸り來て見れば、庭前の梅花がぶんと嗅ふ。其枝先きを眺め見れば、

其處に春が十分に在るとのことである。諸子が成功の道を如何に尋ね歩いても見付けぬであらう。それは成功の道は客觀的に存在して居らぬからである。五年十年成功の道を尋ね歩いても諸子は成功の道に廻り遇はぬであらう。然も歸り來り深夜靜に己れの過去を顧みたら成功の道は既に諸子が體得したる我校の校風即ち予が今日諸子に贈りたる送別の辭にあることを知るであらう。

昭和七年三月六日

予が今日諸子に贈りたる送別の辭である。

來年愛知縣名古屋市熱田の宮に安置する。こが天意の山に丁此が國道中心の

もと備前の丁對し備前の草津藩の陣が景行天皇の時より日本有餘東夷海外の陣に

天孫神國の御天照大御女はこが丁に御宮を建て給はる御宮を築き給はる御宮を

國道建設會覽會大ニ分レテ

## 中京の國道の中継

## 中京は國防の中樞

國防義會發會式に於いて

天孫降臨の際、天照大神がこれもて爾に従はざる賊徒を滅ぼし、國を護るの武器とせよと詔給ひて授け給ひし草那藝の劔は景行天皇の御代に日本武尊東夷征伐の砌以來我愛知縣名古屋市熱田の宮に安置し奉る。これ天意に由りて此地は國防中心の聖地と定められたるにあらざるか。大國の要衝を占むるに在りては、其の地勢を按ずるに、我愛知縣は濃尾の平野を控へ瑞穂の國の真中にあり。誰れ云ふとなく、我名古屋市中京と云ふ。南は熱田灣に由りて大平洋を抱へ、北は日本海西比利亞を脊にして歐亞に通ず。中京は誠に國防の中樞たるべしとの謂にあらざるか。祖宗國防の神熱田神宮の新年三日間の參拜者は年々激増し、今春の如きは實に無慮百萬人と云ふ。人口百萬の都市にして百萬の參拜者を數ふ。天意の存する所民意亦これに従ふ。是れ此地は正しく我國防の中心たるべしとの謂にあらざるか。其

應仁の亂後天下亂れて麻の如く、生黎塗炭の苦を受く。其時其際騷亂を平定し國家を泰山の安きに置きしは實に尾參の三傑なり。我々も亦人主自辨の美を宗て今國家多難の折柄尾參三傑を生みし此縣に、此時此際天下に率先して國防義會發會せらる。實に本會は天の命に副ひ地の利に適し民意の協調を語るものならんか。鎮護國家の熱田の森に神鈴の響く所紫雲鬢鬢としてたなびき金鯨城頭旭日高し。

昭和八年一月十五日

## ハギレのよい江戸ツ子肌の人

故後藤新十郎氏の感想

私は故後藤新十郎氏とは大正十年暮に私が名古屋に来てからおちかづきになつたのである。始めてお目にかゝつた時から何となく大きな仕事をしさうな人のやうに思はれたが其後氏の活動振りを見て初対面の印象が適中したやうに感じた。私交上ゆき、する程親しくもありませんでしたから、氏の私的生活の内容は知りませんでした。が、公的交際上私の得たる印象は誠にハギレのよい江戸ツ子肌で然も人情味たつぷりの人であつた。

人の一生は、社会生活から切り離して見れば、如何に其人が賢くとも、又富めりとして、何の意義もなからんに、私の知りし後藤氏の後半生の生活は、誠に社会的に有意義のものであつたと私は信ずる。うらむらくは天君に壽をかさず、人生有終の美を完うするに近づきながら逝かれしことを。

## 水戸武士の面目躍如念塔

梅村清光君を弔す

梅村清光君。君は性磊落にして温情に富み、豪放にして細心事を圖るに用意周到、一旦計畫成れば勇猛邁進、其言動に於て志士の氣概に充ち、誠に水戸武士の面目躍如たるものがあつた。之れが予の腦裏に寫されたる君の寫真である。

予は一たび新聞記者としての君を知つた。君は誠に眞劍味の記者であつた。予は二たび教育家としての君を知つた。君は誠に眞劍味の教育家であつた。予は三たび政治家としての君を知つた。君は誠に眞劍味の政治家であつた。中京商業學校の開校式に於て君は我校のモットーは眞劍味の三字であると云ふた。予も亦眞劍味の校長眞劍味の職員眞劍味の生徒と君の眞劍味を謳歌して祝辭に代へたと記憶する。君の生涯は公私を通じて眞劍味を以て一貫したと信ずる。之れが君が其到る所其爲す所可ならざるはなかつた所以であらう。只憾むらくは天君に壽をかさ

ず教育界に於ても政治界に於ても大成今一步と云ふ所で他界し給ふたと云ふことである。君の眞劍味を以てすれば此一步は難なく踏破されたものをと我等は深く惜むのである。されど梅村君誰れか千年の壽命を保ち得ん遅かれ早かれ人は死なねばならぬ。志士は生命の徒らに長からんよりは其内容の豊富なるを以て満足すべきであらう。君の生命の内容は誠に豊富であつたと云ふべきである。さらば梅村君、今はお別れである。別れに臨んで君に感謝する。それは君の眞劍味の生活が我等教育者に其教ふる所甚大なりしと云ふことに就いてである。いざ左様なら。

昭和八年八月九日

## 彦根城は我邦開港記念塔

彦根高商開校十周年記念式に於いて

私は本校を訪れる度毎に如何に本校が商業専門學校に相應しき地位に設置せられたかを感じる。其第一は當彦根は近江商人の本場であつたと云ふこと、其第二は本校の前庭には彦根城が屹然として聳えて居ること、其第三は本校は其後庭に琵琶湖を抱ひて居ると云ふことである。

我邦維新前の商業史は、近江商人に由りて綴られて居る。封建制度の下で、自給自足の經濟政策が取られ、士農工商とて商は四民の最下位に置かれ、商人商人と賤められた時代に於て、近江商人が活躍したのである。若し夫れ、近江商人がなかつたなら、我等國民は商の何たるかを解せず、明治維新となつても、容易に世界の舞臺に乗り出すことが出来なかつたであらう……。さても近江商人の本場たる此地に設置せられたる本校に彼等の血と魂とが傳はらぬ筈はなからうことよ。

彦根城は井伊掃主頭の居城であつた。彼は時代達觀の士であつた。徳川幕府三百



年、鎖國攘夷の陋習を破りて開國進取の政策を執つた彼は、之れが爲に櫻田門外で春の雪と消え去つたのである。本校校門前に高く聳ゆる彦根城は、實に我邦開港記念塔と云ふべきであらう。

歐洲大戰後我邦産業の進出甚だ著しきものがある。嘗ては經濟上の貧弱國と蔑視された我邦が、今は先進國氣取りの歐米各國の脅威である。其原因何處にある。近くは幾多の原因あらんも、遠き素因は、開國記念塔たる彦根城と近江商人傳とが沈黙の内に語りつゝあるにあらざるか？

朝な夕なにこの彦根城を眺めつゝある諸君に、何等の感銘なきであらうか？  
私は本校五周年の式場に於て斯く云ふたと記憶する。聞説く、富士の靈峯と琵琶の靈湖とは一夜の中に出來あがりしとか。造化の不可思議力を以てせば或はさもありなん。なれど、そは何の爲に……琵琶湖を介して日本海と太平洋とを結婚せしめて、琵琶湖岸一帯を世界の大市場たらしめんが爲ならざるかと……今私思ふに、全世界の大船巨舶が彦根港に集り來るの日も遠からざるべし。

近世文明數ある中で、人類の福祉増進の爲に、最大なる貢獻をなしたは交通機關と商

業機關との發達である。今や世界の名物何一つ我等の食膳に上し得ざるものはない。バナナ、ヤバ、イヤは最早南洋土人の特有でない。我等がブラジルのコーヒーやセーロンの紅茶を啜り、我等の綠茶がロンドン人の口腔を清める、我等は濠洲産の羊毛を着、我等の絹布が紐育の乙女を飾る。

世界の距離は著しく短縮された。尙ほ陸に海に空に短縮されつゝある。やがては本校の學生諸君が、日曜大祭の聯休日を利用して、パリに一泊旅行に出掛け、彼の地の學生が竹生島詣でに來るの時機到來せんか。

私は本校の前途を祝福する。本校々長矢野先生、脊は高からねど氣品は高い。體は大きからねど膽は太く、智能は深い。容貌はやさしく慈悲心に富んで居るが決心は頗る固い。一旦かうときめたら挺子でも動かない。矢でも鐵砲でも貫徹せねば承知しさうもない、矢の貫城矢のツラヌキのお名前は名詮自性か。従うて本校教授團も學生團も勇將の下に弱卒なし。

私は本校の前途を祝福する。本校々門に祥雲棚びき、琵琶湖上瑞氣漲り、彦根城頭本校々運高し。

昭和八年十一月一日

## 五十年の歲月は長きか短きか

名古屋商業學校五十周年記念式に於て

五十年の歲月は事と次第とに由り長しとも云ふべく又短しとも云ふべくある。又内容の如何に由りては尊しとも否とも云ふべきであらう。本校は明治十七年に生れ、今正に五十年を數ふ。此の五十年……此半世紀の次第如何に。内容は如何。我邦神武建國以來貳千五百九十三年。之を半世づゝに分解し、其何れの一節を取つても、其次第其内容今半世紀のそれに比すべきものがあるであらうか。顧みれば安政年間黒船浦賀港に來り、武力の脅威で開港通商を我等は餘儀なくされた。通商の何たるかを解せざる我等には、云はゞ處女が暴力で犯されたやうなものである。引きつゞき我にもくゝと各國に迫られて五港を明け放し、治外法權お情け關稅の御手當で我等の生血を惜しげもなく吸ひ取つたのである。然も彼等は我等

を可愛がつては呉れなかつた。弱小國なり貧弱國なりと侮りながら、彼等は弱肉強食宗の遵奉者たることを事毎に發揮したのである。之れが本校誕生頃の我邦對外關係であつた。然るに本校誕生後、半世紀間に我邦對内文化の進展對外國際關係に如何なる變化があつたかは私が語るを要せぬ。嘗ては武力の脅威で我等に通商を迫りたる彼等が、今や關稅障壁を高めたり、其他あらゆる手段で我等の通商を拒まんとする。昔を按じ今を思へば、さても心さもしき彼等かな。さても我等の地位の高められたることよ。斯く觀じ來れば、今半世紀は誠に長き誠に内容豊富なる五十年であつた。

本校創立當時の名古屋市は人口約十、二三萬。さすがに六十二萬石の城下丈あつて相當の都市ではあつたが、何等近代的特点なく、尾張名古屋は城でもつ、萬國博覽會に金の鯨銚を持ち出して誇りとなした程度のものであつたとか。然るに今の名古屋は人口百餘萬、近代産業機關何一つ備はらざるはなく、名實共に中京の名に相應しき發達を遂げたのである。して見れば當名古屋市から見ても、今半世紀は誠に長き誠に内容豊富なる五十年と云はねばならぬ。

斯く今半世紀は、國家的にも地方的にも誠に有意義にして、特筆大書すべき五十年なるに、本校が此活躍舞臺に無慮七千有餘の役者を送り出して活躍せしめたと云ふことは、國家的に地方的に其功績大なりと云はねばならぬ。されば本校に於ては特に今半世紀は誠に長き誠に内容豊富なる五十年と云はねばならぬ。然るに今半世紀の古風本校創立當初は入學志願者多からず、入學勸誘難であつたとのことである。さもあらぬ、武士は食はねぎ高揚子の氣風尙ほ去りやらず、商業教育無用論と戦はねばならぬ時代であつて見れば、當事者の苦心もさること、推せられる。此半世紀の本校開校當初には、唐棧の着物に小倉の角帯、前垂かけて腰には矢立、モミ手をしながら登校したとか。其頃の當事者が今の鐵筋コンクリートの教室におさまりて制服制帽威容嚴たる生徒の姿を眺めたら誠に隔世の感じがあるであらう。當初斯る状態の本校も、累代の當事者の劃策宜しきを得、期年ならずして校運隆々、C.Aの名金鯨と共に天下に普く、斯道教育の模範校として廣く全國に知らるゝに至つたのである。私は本校々風三則に敬意を表する。三恩感謝は東洋道德の結晶、商士道の發揮は大和民族精神文化の中核、世界互市場は人類福祉増進の最善方策。

近頃歐米學者間に、歐洲個人主義文明の行詰りを覺り、之れが轉回方策を東洋の精神文化に求めんとするものありと。彼等若し來り求めたなら、彼等に與へよ、本校々風三則を。私は信ずる、本校々風三則は、彼等文明の行き詰りに起死回生の効顯著なることを。

私は本校をして此尊ふとき歴史を所有せしめた本校過去及現在の當事者に敬意を表する。又心から貴ふとき歴史を有する本校の前途を祝福する。さりながら歴史の貴さはそれが過去に輝いたと云ふことでなく、それが現在を刺戟し、未來を照し、永へに其光澤を失はぬと云ふ點にあらうと思ふ。私は前の明治節に於て、我校の學生に對して「世界の帝國の中で、大帝と呼ばれ、大王と呼ばれたる人々數ある中に、今尙ほ其光輝あるは何人ぞ。アレキサンダー大王の霸業、今何處、ピーター大帝フレドリック大王の功業、何處にひそむ。然るに獨り我明治大帝の偉業のみ光輝燦爛、我等を照らしつゝある。之を把持するのは我等の任務である。我等が大和民族の精神文化の中心思想を失はざらん限り、大帝の偉業は永へに我等民族を照らすであらう」と訓話した。

CA 過去半世紀の歴史は誠に貴し。今のCA 諸君此の貴き歴史は諸君の先輩に由りて飾られた。之を把持し次の半世紀の歴史を綴り之を諸君の後繼者に傳ふるは諸君の任務である。徒らに過去を誇りて現在及未來を忘るゝな。光輝ある五十年は既に過ぎ去つた。來るべき五十年百年いな永遠にCA の名を天下に光輝あらしめよ。昭和八年十一月五日中

## 歐洲文明起死回生の藥を何處に求むべきか

和歌山高商開校十周年記念式に於いて

私は過去半世紀の體驗を基調とし、今日の所感を述べて、本校創立十周年の祝辭に代へたいと思ふ。

時は明治廿二年……今より四十四年前（學生諸君の御兩親が御幼少の頃か將たお生れ前か）帝國憲法が發布せられその詔書降下の時である。私は當時ミシガン大學に留學中であつたが、學生間にアワテ先生の名ある某教授が一日新聞紙を鷺攫みにして倉惶教室に這入り來り、教壇に立つや否や、「日本が日本が」と叫んだ。……何事ならんと學生一同耳を傾ければ……日本が到々憲法を發布した。彼等は野蠻人の境界を脱して文明人の仲間入りをせんと試みたのである。……我々幼少の頃は支那の領土の一部であると思はれた日本は、コンモドリア、ペリーに由り、ジェネラル・グラントに由り、世界に紹介せられ、教育もなく、自由通商の利益

をも知らず、專制政體の下に服従を本義とせる國民が、我等歐米人の指導に由り、今や世界の舞臺に乗り出したのである。彼等はモンゴリアン種族で黄色人種である。知能體格共に白色人種に及ばざるも有色人種中では黑色人種は無論のこと赤色人種も……と云つて、教場を見渡すと、私の顔が彼の目に寫つた。そこで急に語調を換へて……白色人種の中でもアングロサクソンは別として、ラティン民族に比すれば或は日本民族はさまで劣るとは申されないであらう事ほご左様に優秀の民族である。彼等は今立憲政治の下に、腹切り首切りの蠻風を脱れんとするのである云々と。先生説き去り説き來り説き終つて、さて講義に移らんとしたが、肝腎のノートを忘れて來たことに氣付き、頭をかきながら、今日生きた國民の最近の歴史を説いたのであると云ふて、教場を退いた。然も先生は違つた教室に這入り來つたことには遂に氣付かなかつたやうである。

明治廿七八年日清戦争當時、私は紐育州に在つた。我國の支那に對する宣戰布告あるや、時の大新聞紐育ヘラルドは、眠れる獅子に對して憐れなる小羊の宣戰と題し、其の漫畫を掲げ、又紐育ウォールド紙は巨人と赤ん坊の取組と題し、巨人大の李鴻章が目

をつむり、大きな椅子に泰然とよりかゝつて居る前に、赤ん坊が泣きづらをして小さな拳骨を突き出して居る漫畫が掲げてあつた。

時の米人の輿論は舉つて大の日本最良であつたが、之は弱者に對する同情に過ぎなかつた。それは我國連戰連捷の結果講和談判となり、遼東半島割讓の議起るや、獨佛露三國干涉となつても、英米は密に三國の尻推しはせなんだが、何等我國に同情的態度に出なかつたからである。

明治卅七八年日露戦役の際に私は支那に在つた。米國新聞紙の輿論は當初概して日本最良が多かつたやうであるけれども、日本がロシアに……。螻蛄の斧と云ふやうな嘲り口調が多かつた。然も旅順の陥落、黒海艦隊の全滅の報傳るや、獨逸皇帝の黃禍説が亞米利加全國民に鷓呑にされかゝつたのである。それはポルトマウスに於ける講和談判の際に、彼等新聞紙に顯はれたる論調によりて推せられるのである。

日露戦役後、我等は何時となく一等國の仲間入りをした。曩の隣れなる小羊が今は獅子王國の仲間入りをしたのである。回顧すれば今昔の感に堪えない次第である。

歐洲大戰には我等はうまく操られた。五大強國ぢや、四大強國ぢやと煽てられて良狗の役を勤めさせられたが、獨逸と云ふ走獸が倒れ、ロマノフ帝國崩壞の後には、彼等の我等に對する態度はガラリと一變した。日英同盟は破棄せられ、青島は無條件に還附せしめられ、支那の領土保全は屢々盟はしめられ、軍縮會議の俎上にあげられて、造りたての軍艦廢棄を餘儀なくせしめられた。彼等は我等が元の憐れなる小羊に立ち歸らんことを切望したのではあるまいか。

歐洲大戰中、彼等は一等國一等國と云ふて我等をおだてしも、誠は經濟上の貧弱國と思ふて我等を侮つてをつたのである。然るに過去十數年間に於て、我等は彼等の驚異に價する丈の經濟上の實力を蓄積し得たのである。之れがロンドン經濟會議やシムラ會商の素因である。

世界列國波瀾多き對立の中に於て、我等大和民族が今日の成功を修めたるは、幾多の原因あらんも主として我等民族の精神教育の確立と、實業教育の振興とに基くものと私は信ずるのである。

輓近歐米學者間には、歐洲文明の行詰りを云ひ、其の轉回策を東洋の精神文化に求め

んと説くもの一二に留まらない。彼等が若し來り求むるとせば我邦の外にはないが、我國の何處に之を求むるであらうか。

昔萬里の長城の主秦の始皇帝は使を派して不老不死の藥を蓬萊の國に求めたとある。使の來りしは我國紀伊の里和歌の浦であつたとか。

紀は紀元の紀、伊はいろはの伊、紀伊の國は第一の國の意義、和歌の浦和歌山は一面詩的情操を運ぶも、他面生氣潑瀾若返りの藥でもあり、そんな聯想が浮ぶ。名は實の相。彼等歐米人が若し歐洲文明起死回生の藥を來り求むとせば、彼等は史實に徴し、紀伊の里和歌山高等商業學校に來り求むるであるまいか。

本校は創立十周年、如何にも若々しく生氣潑瀾、先には岡本一郎と云ふ如何にも創立校長に相應はしき名前の名校長を頂き、今は教育界でハナダ、ハナダと呼ばれる花田大五郎校長を頂く。近世文明不老不死の藥草は既に本校岡本に於て培れ、今は花田花田、教授團も學生團も百花爛漫多士濟々。

彼等憐なる老いたる獅子達よ。彼等果して彼等文明起死回生の妙藥を何れに求むるであらうか。我等に起死回生醍醐の妙藥を彼等に與ふべき用意あることを知ら

ざるか。來れ我邦に、憐れなる老いたる文明の持主よ、來れ我國蓬萊紀の里に……  
花田花田、百花爛漫、多士濟々の境に。……

花田花田、百花爛漫、多士濟々の境に。……  
蓬萊紀の里に……  
來れ我邦に、憐れなる老いたる文明の持主よ、來れ我國蓬萊紀の里に……  
花田花田、百花爛漫、多士濟々の境に。……

### 文明の行衛今いづこ

今世界は文明の光りに照らされつゝ、あるが文明の本體はいづこにあるか。ギリシヤ文明、ローマ文明の時代は過ぎ去つた。我等は久しく歐洲文明を耳にし、文明と歐羅巴とを常に聯想し、今日までに幾百幾千萬の學徒が文明の淵源を歐羅巴に探つたのである。然れども何人も未だ嘗て文明の本體に廻り遇はなかつたのである。文明の本體果して歐洲にあるか、歐洲に在るとせば歐洲の何處にあるか。……

此頃歐米學者間に歐洲文明の崩壞を説き之れが起死轉廻の方策を東洋に求めんとするものありと。我等は求めつゝある玉を自ら抱き居りしにあらざるなきか。聞説く、エジプトのナイル沿岸に發生せし文明は二つの潮流を成し、其一は東漸して印度支那を経て日本に來りて止り、他の一は北進してギリシャローマを経て歐洲大陸（英國を含む）に止まり、暫らくして大西洋を横切り北米大陸に亘り更に西漸し

て我國に來る、今や我國は實に二ヶの潮流の結合點である、文明の本體は此結合點にあるにあらざるなきか。芒鞋踏破隴頭雲、歸來笑撚梅花嗅。春在枝頭已十分、春來れりと聞いて、草鞋穿きて終日春を尋ねて雲のあなたまでも突破したが、春に廻り遇はなかつた。尋ねあぐんで我家に歸り來れば、ぶんと香ふ梅の花、庭前を見れば春は梅の枝頭に十分充ち満ちて居る。我等が歐洲を文明の本場と思ふて、其正體をつかまんと幾久しく探りつゝ、あつた有様は春を尋ね廻はつた此詩人にさも似たり詩人は春に遇はなかつた。我等は文明の行衛を知り得なかつたのである。詩人は我家に歸つた、我等をして我等大和民族の住家に歸らしめよ。我等の庭前に梅花の匂ふものなきか。

本論文集は本年我校を築立つ鶯の初音である……：百花爛漫……：彼等はひとしく異口同音に文明の行衛を嘲へづりつゝ、あるにあらざるか。

昭和九年一月

## 健全なる精神は健全なる身體に宿る

横濱高商十周年記念式に於て

横濱高等商業學校開校十周年其名聲既に宇内に冠たり。其謂れは如何に？  
其 一

横濱は實に帝都國交の關門、我邦文化發祥の起點、顧みて三府五港時代の横濱港を形容すれば、日本の横濱と云はれんよりは、寧ろ横濱の日本と云はるべきことほご左様に横濱の名は尊ふとかりし。斯る歴史ある横濱に生れし高商の發展、豈夫れ尋常一様なるべけんや。

其 二  
本校は其校庭に太平洋を抱へて氣宇廣大、一望萬里。朝な夕なに斯る雰圍氣に育まれたる高商健兒、豈夫れ只野凡兒ならんや。  
其 三



本校々舎は宏壯にして堅牢無比、本校田尻校長は體格偉大、身の丈實に五尺九寸八分健全なる精神は健全なる身體に宿る。偉大なる體格に宿れる精神は必ずや又偉大ならん。偉大なる校長に由りて統率されたる教授團も學生團も多士濟々、宜なり其名聲既に宇内に冠たり。

横濱高商天地人の三才具に備はる。其前途洋々、天涯無窮、目出度し。昭和九年十月廿一日、  
本校々舎は宏壯にして堅牢無比、本校田尻校長は體格偉大、身の丈實に五尺九寸八分健全なる精神は健全なる身體に宿る。偉大なる體格に宿れる精神は必ずや又偉大ならん。偉大なる校長に由りて統率されたる教授團も學生團も多士濟々、宜なり其名聲既に宇内に冠たり。

## 對全日本の精神對全日本の身盤の宿る

## 南海名物何やらん

高松高等商業學校十周年記念式に於て

南海名物何やらんと尋ねたら、「高野の弘法、讃岐の金刀比羅、阿波の徳島十郎兵衛、土佐節、伊豫節、鯉魚節、屋島屋方に芋畑、高松高商、栗林公園」と聞かされた。私は考へた、それなら南海名物は即日本の名物であると。

弘法大師は、我邦文化史上の第一人者、阿波の徳島に、誠の十郎兵衛があつたかドウかは知らねども、阿波の鳴門巡禮に御報謝の一段は、過ぎし日に淨瑠璃娘義太夫にはなくてならなかつた大の呼物。金比羅舟、追ひ手に帆かけて比羅比々々。げに金刀比羅様は鎮護海上船舶擁護の神、誠は我邦のマーキュリーの神に在します。土佐節・伊豫節・鯉魚節は聞くもよし味ふもよし。屋島屋方は源平時代の思出深く、四國の芋はそれがジャガ芋であると薩摩芋であるとを問はず其の味又格別なり。延寶の昔栗林公園の創設に由りて、松平頼重公の徳望高まり、昭和の今日高松高商十年

の存在に由りて、我等商業教育者の聲價重きを加ふ。今は非常時なり時代は世界經濟戰爭の時代なり經濟戰爭の第一線に立つべきは商業闘士である。今は實に於て優秀なる商業闘士を量に於て多々益々多くを要するの時である。此時此際高松高商十年の育英は其國家的貢獻甚大なりと云ふべく宜なり其名聲隆隆々として宇内に響ばしきは。さりながら本校當事者諸君、希くは十年の成功に安ずることなく、尙奮闘努力無限大の成功を收めんことを期せられよ。爰に我等教育者同人本校十年の成功を謳歌し其洋洋たる前途を心から祝福する。高松城址を色ざる松の緑のうつくしさよ。本校校門高くとたなびく瑞雲の氣高さよ。芽出たし芽出たし、いとも芽出度し。

昭和九年十一月十日

## 跋

本書は昭和四年九月に發行されたる「乾甫式辭集」の續篇であります。「乾甫」とは申す迄もなく前校長渡邊龍聖先生の號であります。前の式辭集に先生序して曰く

「本集に收めたる諸片、予は何れも眞心こめて其時の心持ちを書き綴れり、特に卒業生に與えたる告辭の如きは、倫理上の信念・處世上の要道何一つもらすことなからんことを期せり……」

本集收むる所に二三論文やうのものあるは、一面之れ等が予の倫理上若くは教育上の所信の發露であり、従つて予の手になれる總べての式辭の由りて來る源泉とも見らるべしと思ひしが故なり……」

右の序言は移して以て本書の序言と見ることが出來ます。本書は本校學生生徒の修養に資せんが爲め渡邊先生在職中發刊の豫定でありましたが荏苒日を送り今

日漸く上梓することを得ました。本書中若し魯魚の誤ありとすれば、それはひとへに印刷者の責に歸すべきものであります。

昭和十年十一月

印刷を終へて 塚本守士男

此書出版の趣意は、印刷を終へて、塚本守士男の責任に歸すべしとすべし。本書の出版は、印刷を終へて、塚本守士男の責任に歸すべしとすべし。本書の出版は、印刷を終へて、塚本守士男の責任に歸すべしとすべし。

題

昭和十年十一月二十五日印刷  
昭和十年十一月三十日發行

編輯兼發行人 名古屋高等商業學校

印刷人 名古屋高等商業學校能率研究工場

代表者 塚本守男

名古屋市南區瑞穂町

發行所 名古屋高等商業學校